

第73回 全国大会茨城大会 報告

- 1 期日 令和6年8月22日(木)・23日(金)
- 2 会場 「アダリストみとアリーナ」他
- 3 テーマ 『歴史の町で変革を!!』～新たな時代が目に入らぬか～
- 4 参加者 33名 (内:高P連同行者23名)
- 5 分科会 第1 (教育の不易流行)「教育の過去・現在・未来」
～故を温めて新しきを知る～
第2 (生徒指導)「保護者・教師・生徒が抱える問題と解決法」
～新たな一歩を踏み出すために
第3 (家庭教育)「新・生きる力と家族の絆」
～子どもの心に風邪を引かせない～
第4 (PTA活動)「みんなで考えよう、これからのPTA」
～あるべき新しい姿とは～
第5 (地域と学校)「これからのコミュニティ・スクール」・
～地域社会との新たな連携・協働～
- 6 表彰式
- 7 記念講演 第72代横綱 稀勢の里 二所ノ関 寛 氏
演題:人材育成の不易流行



① はじめに

大会に先立ち、装着型サイボーグ HAL[®]や CYBERDYNE について紹介するツアーに参加しました。HAL[®] は身体機能を改善・補助・拡張・再生することができる、世界初の装着型サイボーグで、福祉や医療分野の動作支援、災害現場での復興支援など、幅広い応用が期待されています。

実際に装着して動かしてみると、動かそうとする意思だけで HAL[®]が動き、日本でこんなすばらしい技術が開発されていることに、大変驚きました。現在実用化されているのは、医療分野だけだそうですが、早くいろいろな分野で実用化されることを願っています。



②1日目（第1分科会）

高校生達による『生け花パフォーマンス』のアトラクションから始まりました。圧巻のパフォーマンスで、大きな花瓶に生けた花はどれも見事です。2日間にわたって、会場を明るく華やかに飾っていました。

講演1 演題「藩校『弘道館』の教育」

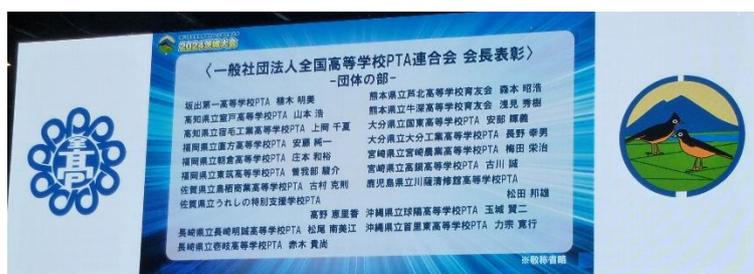
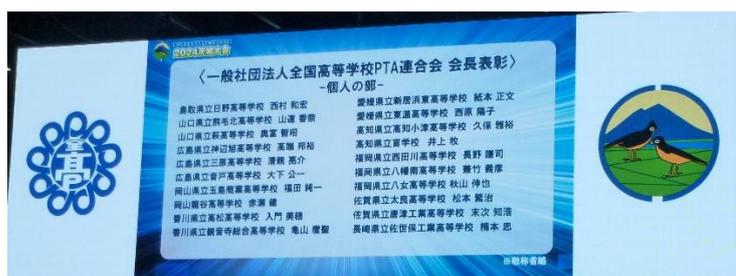
学問が推奨されていた水戸藩についての講演で、水戸藩では江戸時代から、彰往考来（しょうおうこうらい）「過去を明らかにして、将来を考える」と学問が推奨されていたそうです。江戸時代の学びは人々の楽しみや喜びで、自発的な学びだったそうです。また、幕末の大変な時期には、大変な時期だからこそ人材育成が大事だと考え、「弘道館」を創設し、他藩にも影響を与えたそうです。このことから、現在はインターネットで情報だけがドンドン入ってくる時代なので、『学びたい・会得したいと思う気持ち』を大事にしないといけないという事でした。

講演2 演題「もっと学校・教育がみんなに開かれる未来を展望する」

藩校教育が過去の教育とすると、現在・未来の教育はどう展開していくかという講演でした。学校の基本・本質は学習する場であり、教育する場である事。学校の基本・本質に立って、そこから生まれる関係性にこそ、本当の力がある。個別最適な学びと、協働的な学びを取り入れ、クラスメイト、他学年・他校の子ども、地域の人、専門家等多様な他者との協働で、異なる考え方が組み合わせさり、よりよい学びを生み出すというお話がありました。

③ 2日目（開会行事・表彰式）

本県からは 「高知小津高校 PTA 会長 久保雅裕氏」、「盲学校前 PTA 会長 井上牧氏」、「室戸高校 PTA」、「宿毛工業高校 PTA」、が受賞されました。これまでの PTA 活動に感謝いたしますとともに、改めて敬意を表します。おめでとうございます。



④（記念講演）

人材育成の不易流行～失敗から学ぶ～

講師は二所ノ関親方、元横綱 稀勢の里さんです。

15歳で角界に入り引退後早稲田大学大学院で、スポーツビジネスを学んだ事により、スポーツビジネス三大要素を満たすと判断し、茨城県で部屋を起こされたそうです。「皆様に愛され、怪我に強い力士、受身でなく、自分自身で考え抜く」よう

指導し、注目される部屋にしたいと抱負を語っておられました。弟子の指導は、基本を大切にしながら、暗黙のルールに縛られず、変えるべきところは変えるという方針で正に不易流行の精神でした。「大学院で学んでいなかったら、茨城で部屋を起こしていない」という言葉に、幾つになっても学ぶ事の大切さを感じました。

⑤ 結び

高知県からたくさんの方に参加していただき、ありがとうございました。
来年の三重大会へもたくさんの方の参加をお待ちしています。

